

3 2回目評価

3-① 自己評価 【 評価日 : 3月17日

評価者・組織(名称) : 学校評価委員会】

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1 確かな学力	楽しくわかる授業の実践	教職員・生徒アンケート	・教科会を通して、教科としてPDCAサイクルを軸とした教科指導のスタイルを研修することができた。	・テスト前学習質問日および土曜学習について、参加生徒の意識が高まっているので、質の向上について教科会で検討する必要がある。
	基礎・基本を定着させる学習指導の実践	教職員アンケート	・11月の校内研究授業週間では、さらに学習指導力向上に向けて研修を深めることができた。	・家庭学習の定着については、小中一貫合同研修会での情報交換を活かしていくように取り組んでいく。
	創造的な学習ができる生徒の育成	教職員アンケート	・土曜学習は、すべて定期テスト、入学試験前だけにしたこと、テスト前学習の大切さをより一層意識付けることができた。	・PDCAサイクルを軸とした教科研究を生かし、教科会で深めて行くよう教科担当者に働きかけて行く。
	教科会の充実と他教科・他校種との交流の推進	教職員アンケート		
2 豊かな心	魅力ある楽しい「道徳の時間」を実践	道徳教育全体計画の実施状況	・生徒の実態に応じたオリジナル道徳教材の作成を軸に、心に響く指導が定着してきた。道徳教材ライブラリーも充実してきたが、マンネリ化に陥らないように意識しておく。	・オリジナル道徳教材のライブラリーを継続して蓄積・整備をする。
	高めあえる集団作り	生徒アンケート	・発表に向けての取り組みを通して学級・学校全体として、生徒の熱意がみられ、集団としての力が向上した。	・成果を次年度以降も継続できるよう引継いで行く。
	校内美化に努める	校内清掃状況	・校区の地域環境美化を定期的(月3回)に行つた。学校周辺地域は毎朝部活動単位で清掃活動を行つた。 ・美術科、国語科、美術部の作品展示を積極的に取り組んでいる。 ・本校での道徳の取り組みを夏季道徳研修会で報告することができた。	・9年間の学びの中での道徳教育を推進していく。
3 健やかな体	基本的な生活習慣	生徒アンケート	・生徒会とPTA、教職員と共同して、朝のあいさつ運動を継続することで、生徒の遅刻数を抑制することができた。	・生徒の基本的な生活習慣の定着や、健康面についての自己管理など得た知識を日常生活に返していくよう働きかける。
	薬物・防煙・非行防止教室の開催	教室開催状況	・「非行(薬物乱用)防止教室」、「防煙教室」を行い問題行動抑止に効果があった。	・指導者が生徒に寄り添い直接指導する時間の必要性と有効性の意識を継続していく。
	運動能力や体力の向上	体力測定結果・学校祭体育の部	・今年度も学校祭体育の部の「色別対抗」をクラスを解体しての縦割りとした。練習・当日ともに熱意のある活動ができた。 ・性教育と保健体育の指導を有機的に連携させることができ	・指導学年、指導時期等を生徒の実態把握と教育的効果の観点から指導者が常に確認していく意識を持つよう継続して働きかけていく。
4 学校独自の取組	小中一貫教育の推進	小中合同研修会の実施	・小中一貫教育の推進として、合同研修会だけでなく、教職員が小学校行事に参観するなどの意識付けを行うことで、小中教職員がより一層親密になるよう推進出来た。	・年を追うごとに小中一貫教育の大切さについて、教職員の意識の向上はみられるが、今後は、より質の高い内容にしていく必要がある。
	情報発信の充実	学校HPの更新状況	・前年度同様に、各種取組をHPで発信できている。このことにより、保護者や地域の協力を得られていると思われる。	・今後とも、現在の取組を推進していくことで、十分成果は挙がる考えている。
			・小中一貫年間反省を小中合同で取り組んだことで、課題がはつきりしてきた。	・小中間相互の教職員の関係の深まりを継続していく。

3-② 学校関係者評価 【 評価日 : 2月28日

評価者・組織 : 学校運営協議会 学校評議員(いずれかに○)】

評価結果	改善に向けた支援策
・生徒たちの真剣な取り組みの様子。落ち着いた授業の様子から、明るく楽しく学校生活を営んでいる様子が伺い知れる。小中一貫研修で授業を見せてもらったが小学校時に課題のあった児童も落ち着いて学習に取り組んでいた。また、どの部活動も積極的に活動できていることは喜ばしい。 ・ホームページも随時、更新され、生徒達の様子が良く分かる。内容がもう少しわかるようにしてほしい。 ・笑顔で挨拶してくれる教職員が多い。それが生徒の笑顔のある挨拶に繋がっていることと思う。小学校でも実践して行きたい。	・比較的高い評価を得ているが、まだまだ課題も多いと考える。特に、基礎学力の向上については、小学校時の算数の学力定着が不十分で、中学校でも改善できない状況が少なからずある。また、学習意欲の向上については、学習確認プログラムを活用した取り組みや小中連携による取組を継続して進めていく。そのためには、組織としての学校力の向上への取り組みを強化していく必要がある。

4 総括・次年度の課題

今年度は、落ち着いた学習環境の中で学校教育を展開することができたが、落ち着いた学校づくりは手段であって、目的ではない。一つ一つの教育活動が「生徒の期待されるべき成長・発達を促進するために、学校として組織的・継続的に取り組み、指導者の職能成長と、組織としての集団成長を伸長し、かつ、協働体制を作り、組織改革へと繋がっているかどうか」を常に指針として持ち、改善・見直しをして行く必要がある。